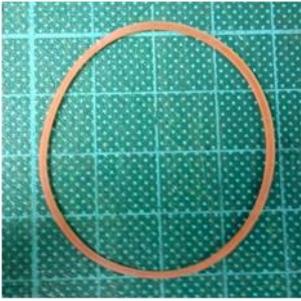


## 「輪ゴムをくぐり抜ける(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



輪ゴムの直径はわずか4 cm。さて、3年生の子どもたちは、この小さな輪ゴムの「通り抜け」に成功するだろうか？

両足は意外と簡単に通り抜けられた。しかし、腰から上はさすがに輪ゴムの弾力と引っ張り強度では限界があるようで、切れてしまう子どもが続出した。



それでも何度も試すうちに、慎重に通してゆけば、切れずに肩まで上げられることがわかった。下の写真は「あともう一息！」とがんばっているところ。

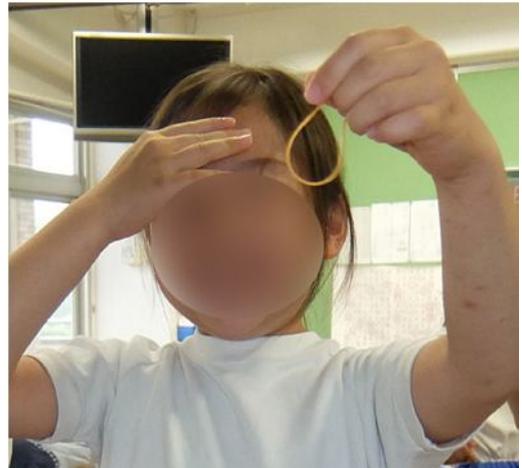


最後の突破口は顔と頭。これが意外と難しい。髪の毛が邪魔してしまう。しかし、これも慎重に輪ゴムを上げてゆくと、通り抜けられることがわかった。



「う～ん、ちょっと痛い！でももうチョイ！」

がんばること数分、ついに「輪ゴム抜け」に成功した子どもが現れた。



「やったー！ほら先生、切れてない！輪ゴム通れた！」

その後も続々と成功し、最終的には、ほとんどの子どもはうまくいって、歓声があがっていた。

### 【子どものノートから】

「あんなちっちゃいわゴムなんて、ぜったいにくぐれないと思ったけど、やってみたらくぐれて、ちっとうれしくて、びっくりしました。」

「ぼくは、2かいちょう戦して、わゴムが切れました。3かい目でうまくぬけられました(抜けられました)。こんなにのびるなんて、わゴムはすごい！」

「くぐったあとのわごむは、ちょっとボロボロだったけど、大きさはもとのと同じぽかった。」